

かながわの交通

2023
8月号

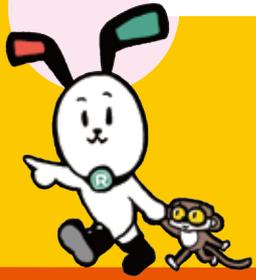
交通安全年間スローガン受賞作品(全日本交通安全協会会長賞)
～こども部門～ 子どもたちに交通安全を呼びかけるもの

ちょっと待て 安全確認 ちゃんとした?



磯子警察署 交通安全祈願七夕まつり

(横浜市磯子区)



道路横断には気をつけて!

高齢歩行者の事故が増えています。

油断大敵! 運転者も歩行者もルールを守って
交通事故防止に努めましょう!

歩行者
事故
多発!

◎県内の交通事故発生概況(令和5年7月末現在)

年別	区分	発件数	死者数	傷者数
令和5年		12,176	66	14,262
令和4年		11,914	64	13,736
増減数		+262	+2	+526
増減率		+2.2%	+3.1%	+3.8%

◎県人口・運転免許人口

	総数	男	女
県人口	9,233,545	4,577,047	4,656,498
免許人口	5,666,706	3,210,867	2,455,839
割合	1.6人に1人	1.4人に1人	1.8人に1人

(県人口は令和5年7月1日、免許人口は令和5年6月末現在)



ホームページ

「第51回交通安全子ども自転車神奈川県大会」の開催

自転車の安全走行に関する知識と技能を競う大会

県内5地区からの小学生 8 チーム 32人が参加！

7月8日(土)、横浜市神奈川区にある横浜市平沼記念体育館で「第51回 交通安全子ども自転車神奈川県大会」が開催されました。



大会会場 横浜市平沼記念体育館



開会式の様子

本大会は新型コロナウイルス感染症蔓延防止のため4年振りの開催となり、「交通規制」「道路標識・標示」等、自転車の安全な乗り方に必要な法規が出題される学科テスト、4人一組のチームで安全走行・技能走行を行う「実技テスト」が行われました。

開会式では神奈川県警察本部 金成交通総務課長、公益財団法人神奈川県交通安全協会 小島専務理事から挨拶があり、神奈川県交通安全母の会連合会 五反田会長の元気な合図で競技が開始されました。



金成交通総務課長挨拶



小島専務理事挨拶



学科テストの様子



五反田会長の合図により競技スタート



安全走行の様子「後方よし!」



技能走行の様子「ピンは絶対倒さないぞ!」



〔優勝 横浜市立小田小学校Aチーム〕



〔第2位 横浜市立小田小学校Bチーム〕



〔第3位 伊勢原市立竹園小学校Aチーム〕

優勝は、横浜市立小田小学校Aチームで、選手達4人には賞状、優勝旗、団体楯、個人楯等が送られ、8月9日東京ビックサイトで行われる「第55回 交通安全子供自転車全国大会」の出場旗が小島専務理事から選手らに手渡されました。



優勝旗授与の様子



全国大会出場旗授与の様子

本大会では、緊張のあまり転倒してしまう選手や、ジグザグピンを倒してしまう選手もありましたが、手に汗握る競技が繰り広げられ、どの選手も緊張の中、真剣に競技に取り組み、選手には観客席から惜しみない拍手が送られました。

全国大会では、北は北海道、南は沖縄まで、44の都道府県から県大会等を勝ち抜いた選手達が集結します。小田小学校の選手の皆さん、優勝を目指して頑張ってください。結果は、次号でお知らせ致します。

夏の交通事故防止運動結果

7月11日(火)から20日(木)までの10日間、神奈川県交通安全対策協議会主唱の下、県内各地区で「夏の交通事故防止運動」を実施しました。

本運動中の交通事故の状況につきましては、昨年の同時期と比べて、交通事故の発生件数は増加したものの、亡くなられた方は無く、負傷者数は減少となりました。

◇ 期間中の県内の交通事故発生概況

	発生件数 (件)	死者数 (人)	負傷者数 (人)
期間中累計	572	0	658
前年同期比	+9	-1	-20

各地区交通安全協会では管内の交通事故の発生状況に応じた交通安全キャンペーン等を実施して交通事故防止を呼びかけました。



旭交通安全協会
二俣川駅前におけるキャンペーン



海老名市交通安全協会
海老名駅前におけるキャンペーン



多摩交通安全協会
向ヶ丘遊園駅前におけるキャンペーン



足柄交通安全協会 南足柄市県道御殿場大井線「竹松」交差点におけるキャンペーン



泉交通安全協会
緑園都市駅前におけるキャンペーン



藤沢北交通安全協会
湘南台駅前におけるキャンペーン

令和6年使用 交通安全年間スローガン(標語)募集



一般部門 A

運転者(同乗者を含む)に呼びかけるもの
(どなたでも応募できます)

A-1 交通ルールの遵守と交通マナーの向上
(例) 横断歩道等における歩行者保護、
運転中のスマートフォン等の
使用禁止、他の車への思いやりの
気持ち、あおり運転の禁止など

A-2 飲酒運転の根絶

**A-3 後部座席を含めた全ての座席における
シートベルトとチャイルドシートの正
しい着用**

A-4 前照灯の早めの点灯
(例) 夕暮れ時における前照灯の早めの
点灯により歩行者を早く発見する
こと、自分の車の存在を周囲に知
らせること

A-5 高齢運転者の交通事故防止

一般部門 B

歩行者・自転車利用者に呼びかけるもの
(どなたでも応募できます)

B-1 交通ルールの遵守と交通マナーの向上
(例) 横断歩道等における交通ルールの

遵守など歩行者は回り道でも横断
歩道を横断すること、横断するときは
手を上げるなどして運転者に対して
横断する意思を明確に伝えること、
車の直前・直後や横断が禁止されて
いる場所を横断しないことなど

(例) 自転車は交差点に入る前に一時停
止や安全確認をする

(例) ながら運転の禁止

B-2 夕暮れ時と夜間における交通事故防止
(例) 反射材用品、ライトの点灯

B-3 自転車の安全利用
(例) 自転車の運転者は被害者にも加害者
にもなるという両面を持っていること
(例) 全ての年齢層に対する乗車用ヘル
メットの着用、車道は左側を通行、
歩道は歩行者優先で車道寄りを徐行

こども部門

こどもたちに交通安全を呼びかけるもの
(中学生以下のみ応募できます)

重点テーマは特に定めない

※ 各部門とも、重点テーマに沿ったスローガンを
作成してください(句読点はつけないこと)

締め切り 令和5年9月25日(月) 消印有効

送り先 〒100-8051 東京都千代田区一ツ橋1-1-1
毎日企画サービス内「交通安全年間スローガン」事務局
お問い合わせ

毎日企画サービス内「交通安全年間スローガン」事務局
TEL:03-6265-6815 平日午前10時~午後5時

令和5年度 交通安全ファミリー作文コンクール

《応募期間》

令和5年7月7日(金)~9月8日(金) ※当日消印有効

《応募区分》

○小学生の部 ○中学生の部

受賞者数 表彰区分	最優秀作	優秀作		佳作
	内閣総理大臣賞	国務大臣・国家 公安委員会委員長賞	文部科学大臣賞	警察庁交通局長賞
小学生の部	1点	各学年1点以内	1点以内	各学年3点以内
中学生の部	1点	各学年1点以内	1点以内	各学年3点以内

《お問い合わせ先》

- 事務局 株式会社オーエムシー内「交通安全ファミリー作文コンクール係」
TEL 03-5362-0114 FAX 03-5362-0121 E-mail : sakubun2023@omc.co.jp
- 警察庁交通局交通企画課交通安全ファミリー作文コンクール担当 TEL 03-3581-0141
<https://www.npa.go.jp/bureau/traffic/sakubun/index.html>



交通事故の悲劇に学ぶ ①①①

● 「罪の重さ」

K.H 会社員 (10代)

私は普段から車を走らせたり、洗車をするのを楽しみにしていました。そしてクルマ好きな先輩、後輩や友人らと夜中に集まり走りに行くのが日常でした。

そんな日々を送っていたある年の2月、仕事が夜中の12時頃に終わり、2日間の休みが入りました。

そこで最近洗車をしていないので、後輩を誘い一緒にスタンドに向かいましたが、水道が凍結していて洗車ができませんでした。

そのまま帰るのもつまらないので、近くにいた後輩数人と合流して、いろんな所をただフラフラと走った後で、最終的にはデパートに行くことになりました。

そこに向かう途中、私と後輩は国道でレースのような遊びを行い、速度は最高で時速200km近くは出ていました。

目的地の近くまで来ると前方にトラックが8台近く止まっているのが見えました。

本当はそこでブレーキをかければ良かったのですが、私は、「後輩に負けたくない」、「夜中だから反対車線から車も来ないだろう」などと全く根拠のない理由をつけ、アクセルを踏み続けました。

そしてナンバープレートが分からないようライトをすべて消し反対車線に出ました。するとトラック数台を追い越した時に突然、トラックの間から被害者の車が右折して来ました。私は急ブレーキを踏みましたが、止まりきれず被害者の車とぶつかり、その勢いで左右にハンドルが取られ、縁石や駐車中のトラックにもぶつかる大きな事故を起こしてしまいました。

事故後、すぐに被害者の車に向かい、車内を見渡しましたが誰も乗っていませんでした。そこで後輩たちに「相手の方はどこにいる」と聞いたところ、後輩の一人が「あそこに倒れています。マジでやばいです。」と真っ青な顔で話すので、私は走って倒れている所に向かいました。

相手の方は、車から何mも離れたスーパーの駐車場にうつ伏せに倒れていましたが、一見して身体の損傷が激しいことが分かりました。

その後、警察の方や救急隊が到着し、事故の状況を救急車の中で説明するように言われました。

私が説明していると、救急隊の方が近くで「相手の方は即死です」と話しているのが聞こえました。それを聞いて私は「人を殺してしまった、もう何もかも終わりだ」と心の中で思いました。

警察官の現場検証と取調べを受けた後、父に来てもらい自宅へ一時帰宅することができました。

事件から裁判までの一年は、被害者の方の葬

儀に参列し、別室で謝罪をさせていただいたほか、被害者の保険会社を通じて謝罪の手紙を渡してもらいました。

また、私の勝手ではありますが現場に献花をして線香をあげるため、月に1、2度は事件現場に行くようにしていました。

そして判決の日が来て、自動車運転過失致死罪で懲役2年8か月の刑が言い渡されました。

私が犯した罪の重さを考えれば当然の結果だと思います。

被害者の未来を奪い、御遺族に大きな悲しみ、苦しみを与えてしまいました。

その当時、被害者の方には中学3年生の息子さんがいました。その息子さんから、たった一人の母親を奪い、これからの成長を見せられないという残酷な事をしてしまいました。そのことを考えれば、2年8か月という刑期は短いと思います。

この刑期を終えれば、私は普通の生活に戻ることができそうですが、亡くなられた被害者や御遺族の方は、普通の生活に戻ることにはできません。

市原刑務所の職員の方が、紙を使ってこんな話をしてくれました。「ここに1枚紙があります。この紙は人の人生や心だとします。紙をグシャグシャに丸めてから元に戻すと1枚の紙に戻りますが、しわがついたままで、きれいな元の状態には戻りません」つまり、一度受けた傷は一生癒えないということです。

その話を聞いて私は何も言葉が出ませんでした。そして改めて、自分が起こした事件の重大さを感じました。

私が起こした事件により様々な方に与えてしまった被害は、決して元の状態に戻ることはありません。それと同時に、謝罪や償いにも終わりはありません。

出所後、御遺族の方のお許しがいただけるなら手紙での謝罪か、直接お会いしての謝罪を行いたいと思っています。

この「贖いの日々」を読んだ方には「自分は大丈夫」などと他人事として考えないで欲しいのです。なぜなら、私自身がそのように考え、今に至っているからです。

どうか、現在ハンドルを握っている方は今一度、自分の運転を見直すようにして下さい。そしてこれからハンドルを握る方は、交通ルールについて学んだ上で、周囲に守っていない人がいれば注意を呼び掛けて下さい。お願いします。

～ (一財)東京都交通安全協会編集発行
「贖いの日々(第57集)」から～

この人

208



栄交通安全協会
会長

もり かつみ
森 克巳さん



栄交通安全協会は、昭和54年戸塚南交通安全協会として発足し、昭和61年、戸塚区からの分区による栄区誕生と同時に名称を栄交通安全協会と変更し現在に至っております。

栄区は、平成25年に安全、安心な街づくりに取り組む街に与えられるセーフコミュニティを取得し、地域ぐるみで怪我や事故防止に関する予防活動を展開する街です。

元気な高齢者が多い、緑ゆたかな安全、安心な街、栄区で会長として活躍されている森 克巳会長をご紹介します。

森 会長は、昭和28年に栄区で生まれ、現在は上郷町にある横浜御嶽神社の宮司さんです。

栄交通安全協会発足当時より、安全協会の活動に積極的に参加し、平成元年より交通指導員、平成7年より地域交通安全活動推進委員として活躍され、平成20年に副会長、令和4年に会長に就任されました。フットワークが軽く、経験豊富で、どんな

時でも冷静に現場の皆さんを引っ張っていただく頼りがいのある会長です。

若い頃より地域の活動に携わり、消防団を36年間、青少年児童員も12年間勤め、現在は保護司としても活動されており、先達さんと呼ばれ、地域の方々に親しまれています。

森会長は、戸塚南交通安全協会時代から、一人でも多くの方に標語を読んで貰いたい、事故ゼロの希望と願いをこめて生まれた手作りのミニ凧を通し、地域の交通事故が少しでも減るように、これからも頑張っていきたいと語っておられます。

会長は、公私ともに忙しい毎日を送られておりますが、健康に留意され、これからも栄交通安全協会の活動をけん引して頂き、栄区の交通事故が一件でも減るよう一丸となって頑張っていきたいと思っております。

取材協力：栄交通安全協会

こんにちは「川崎交通安全協会」です

川崎交通安全協会は、昭和24年4月に発足し今年で74周年を迎えます。

管内の、祭礼行事及び各種イベントの開催数は年間で30件以上であり、県下でも有数の開催地と思われまます。こうした交通関係の行事等に積極的に参画していただいている当協会の交通指導員と協力団体である川崎交通事故防止研究会の活動の一部を今回紹介します。

交通指導員が中心となつての活動は、各季の交通安全運動期間中、各町内会単位で主要交差点において交通安全見守り活動をしている町内会役員に対して、交通整理誘導の実践指導や年1回、警察の協力のもと行政機関と連携して、各町内会の交通部長を招集し交通安全講話や街頭指導の要領について研修会を開いております。

また、祭礼行事やイベントの他、正月恒例の箱根大学駅伝の交通整理を長年に亘って支援しており、年間を通じての活動は相当数あり、交通指導員の果たす役割は大変重要なものであります。

日頃から、熱心な活動が地域に根差し、地域住民と一体となつて活動していることで、交通指導員の存在と必要性が認められることとなり、各町内会からの交通指導員の推薦や勸奨活動にも役立っております。

次に、交通ボランティア団体として、交通指導員を定年退職された方や地域の交通安全に関心を



持っている方々が賛同し、地域の交通事故防止と交通安全意識を高めることを目的に、昭和56年に設立した「川崎事故防止研究会」があります。

この会は、主に、区内小学校の自転車教室の授業として要請を受け、資器材を活用した交通安全教育を実施しております。

過去には、県協会主催の「交通安全子ども自転車神奈川大会」の会場設営にも携わつて、現在の業者が担当するまで、準備作業をしていたと記録が残っております。

当協会としては、このような支援団体と交通指導員の支えにより、交通安全活動事業が円滑に推進し、大きな成果を上げていることに、会長とともども深く感謝しているところです。

今後も、警察及び行政と連携して地域の交通事故防止に寄与することを目的に各種の事業を行ってまいりたいと考えております。

(川崎交通安全協会 事務長 吉田 聡一郎)

地区交通安全協会の活動紹介



横須賀 ソレイユの丘における春の全国交通安全運動キャンペーン



三浦市 うらりにおける春の全国交通安全運動キャンペーン



保土ヶ谷 保土ヶ谷駅前における二輪車事故防止キャンペーン



田 浦 船越町における二輪車事故防止キャンペーン



座 間 相武台前駅における春の全国交通安全運動キャンペーン



大 船 大船祭における春の全国交通安全運動キャンペーン



川 崎 川崎駅周辺における自転車・二輪車事故防止・暴走族追放運動キャンペーン



藤 沢 市 辻堂における二輪車事故防止キャンペーン

交通安全活動

賛助会員の紹介

このコーナーでは(公財)神奈川県交通安全協会の交通安全活動に賛同し、賛助会員としてご協力をいただいている企業等を順次ご紹介しています(敬称略)。

- (株)重慶飯店 _____ 横浜市中区山下町
- 全国共済神奈川県生活協同組合 _____ 横浜市中区常盤町
- サンエス技研株式会社 _____ 横浜市都筑区北山田

賛助会員入会のお願

公益財団法人神奈川県交通安全協会では、交通事故のない安全で安心な交通社会を実現するため様々な交通安全事業を行っております。交通事故防止活動に賛同していただける「賛助会員」としての入会をお願いいたします。

インフォメーション

- 地区会長会議 _____ 9月13日(水) 県協会会館
- グッドライダーミーティング(レディース) _____ 9月16日(土) 運転免許センター
- かながわ バイクリカレント スクール _____ 9月18日(月) 秦野自動車教習所
- 秋の全国交通安全運動 _____ 9月21日(木)~30日(土)までの10日間
- セーフティ・ライダーズスクール _____ 9月23日(土) 運転免許センター